

【国語科】

確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成を目指して
—書いて、自分の思いを表現する—

大阪市立千本小学校

1. 研究主題設定の理由

本校の現状として、学力の低さと合わせて、自尊感情の低さが挙げられる。自尊感情が低いということは、「自分はできない」「できないからしない」「しないからできない」の負のサイクルを繰り返すことにつながる。そこで研究主題を「確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成を目指して」と設定し、子どもたちの自尊感情を高める取組を学校全体で進めてきた。特に国語科の「書くこと」に課題があるため、研究教科は国語科に設定し、「書いて、自分の思いを表現する」ことに重点を置いた。

2. 研究の趣旨

めざす子ども像

本校では「心豊かで、たくましい子どもを育てる」を学校教育目標とし、「よく考え、進んで学ぶ子」「思いやりがあり、助け合う子」「たくましく最後までやりぬく子」を目指して教育を推進してきた。

自尊感情を高める取組とともに「書くこと」を研究することで、基礎・基本の学力と自分の思いを伝えたいという意欲を高めることをねらいとしている。

3. 研究の概要

1つ目の視点は、「思いや考えを書いて伝え合い、互いのよさを認め、自尊感情を高める活動の工夫」とした。書くことへの抵抗感を持っている児童も、「書いてみよう」という意欲を高めるための工夫を研究した。

2つ目の視点は、「基礎・基本の学力を確かに身につける具体的な支援の工夫」とした。言葉の意味を知らなかったり、語彙が少なかったり、漢字が定着していなかったりして「書こうとしても書けない」児童でも、「書ける」ようにするための手立てや基礎・基本の言語を身につけるための工夫を研究した。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

視点1「思いや考えを書いて伝え合い、互いのよさを認め、自尊感情を高める活動の工夫」

【教材文（説明文）を読み取る】

- ・2つの教材文を上下に並べて1枚にまとめたシートを使用することで、それぞれの文章のよさや違いについて気づかせることができた。

（文章の長さ、写真やイラスト、時間的な順序、見出しなど）

【教材文（物語文）を読み取る】

- ・物語全文を1枚にまとめたシートを使用した。
- ・各場面の主人公の気持ちに印を付けることでその変化を視覚的に分かりやすくした。
（「楽しい」「うれしい」出来事には赤線、「不安」「かなしい」出来事には青線など）
- ・全文シートにより、全体を通しての気持ちの変化を捉えることができた。

【相手意識を持って書く】

- ・何のために書くのか、誰に対して伝えるのかを明確にすることで、意欲的に書くことができた。

（２年生から１年生に向けて、物語の登場人物になりきって手紙を書くなど）

【相手に伝わる、説得力のある文を書く】

- ・話型を提示することで、伝わりやすい文章を書くことができた。
（理由は○つあります。１つ目は～です。２つ目は～です。）
- ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出して書くことができた。
- ・資料から分かる事実と自分の意見を書くために、構成メモを使用した。
- ・モデル文から、序論は「話題提示」、本論は「資料①の事実・考え」と「資料②の事実・考え」、結論は「まとめ（自分の考えや・できること）」という文章構成を確かめることができた。（接続詞、事実と考えでの文末表現、資料の活用の仕方など）
- ・パワーポイントを使って、資料を提示しながらプレゼンテーションができた。

【交流する】

- ・評価表を使って聞くことで、聞く視点が明確になった。
（①事実を正しく書いているか。②自分の考えが述べられているか。
③具体的な数値や割合を挙げられているか。④一言感想）
- ・書くことができると、どの子も主体的に交流に参加することができた。
- ・友だちと自分の意見を比べる中で、それが同じであっても違っていても自信を持つことにつながった。

視点２「基礎・基本の学力を確かに身につける具体的な支援の工夫」

【音読指導】

- ・毎時間の全文音読により、物語の構成や流れを理解して、自分の意見の根拠となる文を明確にして考えることができた。

【写真・挿絵の活用、動作化】

- ・挿絵によって具体的な情景を確かめてから情景描写の文章を読み込むことで、登場人物の気持ちの変容を詳しく読み取ることができた。
- ・写真から分かることを見つけ、本文の言葉と一致させながら語句の意味を確かめることができた。
- ・動作化することで、語句の意味を子どもの中に落とし込むことができた。

【学びタイム（語彙力の向上）】

- ・視写プリント
- ・漢字学習（新出漢字の文づくり、漢字ビンゴ、漢字パズル、部首クイズなど）
- ・ICTの活用
- ・国語辞典や漢字辞典を使つての調べ学習
- ・学校図書館や西成区図書館と連携した読書活動の推進

（２）課題

- ・一つは、より「個」に応じた支援の工夫
- ・交流の場面では書いたことを一方的に伝え合うだけになっていた。交流によって学びを深めていけるような手立てが必要である。